

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第262回

中内 功

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和3年7月12日

編集委員：入試広報室 鈴木

今回の言葉



人間とは本来弱いものだ。

だが、信念とか使命感で行動する時は、

なぜか果てしなく強くなる。

中内 功は、日本の実業家。ダイエー創業者。戦後の日本におけるスーパーマーケットの黎明期から立ち上げに関わり、近年の消費者主体型の流通システムの構築を確立させ、日本の流通革命の旗手として大きく貢献した。

Column

まず、『弱い』ということを受け入れていることに“勇氣”のようなを感じます。私がみなさんと同じ高校生だった頃に、怖がりだと思われたくないから強がって見せたり、部活動では先生に指摘されることを恐れて挑戦をせず、何の成長も当然ながら勝利も見込めない“安全策”に走ったことが原因で防戦一方となって試合に負け、戦うことから逃げた自分を後悔したことを思い出しました。

しかし、当時の失敗を思い出しながらも『もしも当時、この言葉に出会っていたらもっと早く成長できていたのかもしれない』とは思いませんでした。なぜなら、このようなアドバイスは当時も先生方から頻繁にいただいていた記憶もあるからです。では、なぜ当時はできなかったのか。その理由は今回の言葉の後半部分にあると思います。覚悟を持った自分の強さを、当時の自分は残念ながら信じ切ることができなかったのです。根拠のない自信もあったはずの当時ですが、自信がなく、それを悟られることも嫌う非常に複雑な心理状態だったことも思い出し、“多感な時期”と言われる理由が今になってやっと納得できたという気持ちです。

みなさんの周りの仲間を見渡してみてください。『果てしなく強い』人がいませんか？その仲間と自分の違いはなんだと考えますか？才能の違いでしょうか？私は違うと思います。やはり人間は本来弱いもので、様々な不安に押し潰されてしまうものだと思います。覚悟を決めるということも非常に難しいことだと思います。私自身も非常に弱く、そんな自分がとても嫌いで周りからも弱い人として見られているという不安で気持ちが前を向かない時期がありました。今は当時よりは“マシ”になりましたが、強くなったとは思っていません。ただ、弱さを隠さなくなりました。自分なりの信念や使命を持っていることを幸せだと思うようになりました。弱さを隠したり拒絶するだけでなく、思い切ってそんな自分を受け入れてしまうことが、実は解決のヒントになることもあるのかもしれない。自分でも気づいていない自分の大きなパワーや強さ、体感してみたいものですね！